

# 雨あがりのにじ

【中学年 3 - ( 3 )】

## - 視聴覚資料や「心のノート」を活用した取組み -

( 1 ) 主題名 美しいものに感動する心 [ 3 - ( 3 ) ] 関連項目 [ 3 - ( 1 ) ]

( 2 ) ねらい 日常生活を通して出会う自然の美しさやすばらしさに気づき、美しいものや気高いものに素直に感動する心情を育てる。

( 3 ) 資料名 「雨あがりのにじ」

( 4 ) 授業の展開例

	学 習 活 動	主な発問と児童の心の動き	留 意 点
導 入	1 イメージゲーム 「ハイキングに出かけよう」をする。	今からハイキングに出かけます。目を閉じて音を聞きながらどんな場所か、また、どんな気持ちになるかイメージしてみましょう。 ・山の朝 など	効果音を聞かせることによって、想像力を働かせ、自然の情景をイメージできるようにする。
展          開	2 資料の前半を読み、けんかしてしまったわけやその時の腹立たしい気持ちについて考える。  3 資料の後半を読み 主人公たちの気持ちの変化について考える。  4 自分たちの経験について話し合う。	こうたくんの家を飛び出した時、たかしくんはどんな気持ちだったでしょう。 ・あんな言いかたするなんてひどい。 ・はらがたってたまらない。 ・もう、友だちじゃない。  どうして虹を見て仲直りする気持ちになったのでしょうか。 ・きれいなにじを見ていたら気持ちがすうっとしてきたから。 ・きれいなけしきを見て、むしゃくしゃしていた気持ちがおさまったから。 ・にじを見ているとちょっとしたことに腹を立てた自分がはずかしくなった。  たかしくんたちのように何かを見たり聞いたりしたことで気持ちがすっきりしたことはありませんか。	いつもはとても仲よしの二人であるが、その日は、こうたくんがおもしろくないことがあってむしゃくしゃしていたことを押さえる。  虹の出ている風景を実際に投影しながら、主人公たちの気持ちにより迫らせるようにする。  教師の体験談も紹介する。
終 末	5 「心のノート」 p 6 0 , 6 1 の写真を見たり、音を聞いたりしながら美しい自然の情景を想像する。	p 6 0 , 6 1 の写真を見ながらどんな音が聞こえるか想像してみましょう。  目を閉じて川の流れる音を聞いてみましょう。どんな景色が見えますか。	溪流の効果音を流しながら情景を想像させるようにする。

## 雨あがりのにじ



「こうたくんなんか、もうぜっこうだ。」

たかしくんは、大きな声でどなるとこうたくんの家を飛び出しました。外は、まだ少し雨がふっています。たかしくんは、雨にぬれながら河原までやってきました。そのまま家にも帰る気にならず、屋根のあるベンチにすわると、さっきのけんかのことを考えていました。

たかしくんとかうたくんは、とてもなかよしで、学校でも家に帰ってもよく遊びます。今日も、二人はこうたくんの家で、ゲームをして遊んでいました。いつもはあまりおこることもないたかしくんですが、今日は、学校でおもしろくないことがあってむしゃくしゃしていたせいか、こうたくんの

「へたくそだなあ。」

ということばにはらが立ち、いいあらそいになってしまったのです。

「こうたくんが、悪いんだ。」

河原のベンチにすわって、たかしくんはつぶやきました。ふとまわりを見ると、さっきまでふっていた雨はやみ、空にはうす日がさしはじめていました。たかしくんは、こうたくんのうちにかさをわすれてきたことに気づきました。

（おこってとび出したから、かさをわすれちゃった。）

たかしくんは、こうたくんのうちにかさをとりにもどろつかと思いました。けんかのこととを考えるとなんだかもどろづらくて、そのまま河原のけしきをながめていました。

雨はやみ、空は明るくなっていました。

「あっ。にじだ。」

たかしくんは、雨あがりの空ににじが出ているのを見つけました。にじは、緑の川土手の向こうがわで、七色の光をはなっていました。

「わあ。赤、黄色、緑、青……。いろいろな色があって本当にきれいだなあ。」

たかしくんは、久しぶりに見たにじのうつくしさにうっとりして、しばらくにじにみとれていました。にじの下では、雨にぬれた川土手の草がキラキラがやいてとてもすがすがしいけしきでした。ふしぎなことに、そのけしきを見ていると、さっきまではらだしかった気持ちがなんだかすつとすまってくるようでした。

（どうして、こうたくんにあんな言い方しちゃったんだろう。）

たかしくんは、こうたくんにひどい言い方をしてしまった自分が、少しはずかしくなってきました。

（あやまりに行こうかな。でも、ぜったいこうたなんて言ったから、こうたくん、ゆるしてくれないかもしれないな。）

たかしくんは、色とりどりのにじを見ながら少しまよっていました。

でも、きれいなにじを見ていると何だか仲直りしたくなってきました。たかしくんは自分からあやまろうと決心し、こうたくんの家に行ってみることにしました。

こうたくんのお母さんにあんな言いされて、ドキドキしながら、二階のこうたくんの部屋に入りました。まどの外をながめていたこうたくんがこちらをふりむきました。

「こうたくん。さっきはごめんね。」

と、たかしくんが少してれくさそうに言いました。

「ぼくこそ、ひどい言いかたして、ごめんね。」

と、こうたくんもやさしい顔で言いました。

「それにしても、きれいなにじ。」

二人はいつこりとほほえむと、まどの外にあざやかにかがやくにじをいっしょに見つめていました。



# 活用に生かすための実践報告

「雨あがりのにじ」

議さをできるだけ多く出させるようにする。

## 1 主題の設定

中学年になると、認識能力の発達に伴い、子どもたちの想像力や感受性が高まってくる。こうした時期に想像力や感性の育成を図り、日常生活を通して出会う自然の美しさやすばらしさに感動する心情を育てることは、大切なことと考える。

本資料では、子どもたちが自然の美しさやすばらしさをしっかりと感じ取ることができるよう、日頃目にする機会の多い「虹」を取り上げる。

## 2 指導過程の工夫

導入では、「鳥のさえずり」や「波音」、「雨音」などの効果音を聞きながら、情景を自由にイメージさせる活動を取り入れる。

展開では、主人公の見た風景をイメージしやすいよう、数枚の虹の写真をスクリーンに投影する。

終末では、「心のノート」p 60, 61の写真や溪流の効果音を活用し、美しい自然の情景を想像させる。

## 3 発問の工夫

展開前段では、友人の家を飛び出したときの主人公の気持ちを問い、けんかしてむしゃくしゃした主人公の気持ちにしっかりと寄り添わせるようにする。子どもたちの意識が「友情」や「思慮・反省」に向かないよう、中心発問は「仲直りする気持ちにさせたもの」を問うものとする。

展開後段では、主人公のように何かを見たり聞いたりしたことで気持ちがすっきりした経験について尋ね、子どもたちが日常のいろいろな場面で出会う自然の美しさや不思議

## 4 児童の反応

【仲直りする気持ちになった主人公について】

・にじがとってもきれいだから、気持ちがすっきりしてなか直りしたくなった。

・きれいな色のにじを見ていると、おこった自分がはずかしくなってきた。

・きれいなにじを見ていると心がいやされて、こうたくんにあやまりたくなった。

【自然を見て気持ちがすっきりした経験】

・きれいな青空を見ていると気持ちがすうっとして、はらがたっていたのがなおった。

・青い空にあるきれいな雲を見ていると、何だか楽しい気持ちになった。

・風で草がざわざわいうのを聞いていたら、とっても気持ちがよくなった。

・川の水が流れるのを見ていると、いやなこともしょに流されていくように思った。

## 5 実践者からの一言

美しい虹の写真をスクリーンに投影したことは、自然の美しさを感じ取らせるために大変効果的であった。

導入や終末で自然の効果音を聞かせ、情景を自由に想像させる活動を取り入れたことは、子どもたちの想像力や発言意欲を高めるために大変効果的であった。

授業は子どもたちが床の上に座る形で行った。終末では、床に寝て溪流の音を聞きながら情景を想像する形を取ったが、子どもたちはとてもリラックスできたようである。

教師が予想した以上に、子どもたちは自然の美しさに感動した経験を発表した。子どもたちの想像力や感受性の豊かさに教師自身が驚かされた授業であった。

(竹屋小学校 森川敦子)